7月号の主な内容

|  |  |
| --- | --- |
|  | 大崎地域を世界農業遺産へ Vol.13  市長コラム 天地人 |
|  | 10月1日から介護予防・日常生活支援総合事業〈新しい総合事業〉を始めます |
|  | 選びとれ 明るい未来を 君の手で  第24回参議院議員通常選挙 |
|  | 十年物語　～おおさき人の軌跡～  鳴子温泉観光ボランティアの会会長 馬場祥悦 さん  おおさき青年会議所理事長 安部文秋 さん |
|  | 地域づくりファイル  　 岩出山地域づくり委員会 |
|  | 市政トピックス　6月の主な出来事 |
|  | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
|  | オオサキプレイガイド |
|  | 市職員を募集します　ほか |
|  | 今月のお知らせ |
|  | 子育て支援情報 |
|  | 育児相談・乳幼児健診 |
|  | 休日当番医　ほか |

今月の表紙

6月5日、今年3月に閉校した鹿島台第二小学校の校舎と体育館を会場に、デリシャストマトまつりが開催され、約3,000人が買い物やトマトの早食い競争などを楽しみました。

　直売コーナーには3トン分のトマトが用意されました。まつりが始まると同時に会場を埋め尽くす長蛇の列ができ、みずみずしく真っ赤に染まったデリシャストマトを買い求めていました。

　もぎ取り体験に参加した子どもたちは、熟したトマトを探して葉の間を覗き込んだり、頭の上にあるトマトに思いきり手を伸ばし、採ったトマトを見てにっこり。農園を出るころには、袋いっぱいのトマトを大事そうに抱えていました。

パタ崎さんのひとくちメモ

その一　ぼくと一緒に観光について考えていきましょう！

全国の多くの地方で人口が減り、消費の低迷が続いています。大崎市も決して他人事ではありません。

　このような状況を少しでも改善するためには、大崎市の観光のあり方を見直し、より多くの観光客の皆さん（交流人口）に、大崎市で消費してもらうことが地域の活性化へとつながっていきます。

　いま、観光に求められているのは、景観や施設を「見る観光」から、その土地の暮らしや食・文化を「体験する観光」へと移りつつあります。

　地域の生活や文化を観光に取り入れることで、より幅広い観光産業が展開できるようになり、その実現には、地域をよく知る皆さんのご協力と、おもてなしの心が必要不可欠です。

　このコーナーでは、観光に関する課題や取り組むべき事などを紹介しながら、皆さんと一緒に魅力ある大崎市を目指していきます。

大崎地域を世界農業遺産へ　vol.13

里地・里山の保全と大崎耕土の恵み⑨ 「生物多様性と農業の共生」

大崎耕土の水田農業は、湿地などの未利用地を水田利用することで発展してきました。そして、水田や水田地帯に張り巡らされた水路、ため池、・といった、水田を核とする湿地性の生態系が残され、生きものと農業の共生の姿も残されてきました。

　水田の周りにはカメムシなど、稲の害虫も生息していますが、カエルやクモ、トンボなど、害虫を食べてくれる生きものも多数生息しています。このように害虫の天敵となる生きものがすみやすい環境を維持することが、農業生産に対しても恩恵を与えているのです。

　全国的に農薬などによる害虫防除が主流となっている中、大崎地域では環境保全米や有機栽培に取り組む農家を中心に、天敵となる生きものによって害虫被害を軽減して農薬の使用を抑え、人と生きものが互いに支え合う共生の取り組みが行われています。次世代につなげていきたい大崎地域の大切な宝です。

世界農業遺産

勉強会（第7回）

日時：7月24日日曜日

10時～12時

場所：涌谷公民館（涌谷町）

内容：箟岳と農民の信仰白山祭と種籾交換‐ほか

講師：佐々木茂楨 氏(前涌谷町文化財保護委員長)ほか

定員：50人

申込：7月22日まで、産業政策課世界農業遺産推進室へ、電話かメールで申し込み

【問い合せ先】産業政策課

世界農業遺産推進室

電話23-2281

[sangyo@city.osaki.miyagi.jp](mailto:sangyo@city.osaki.miyagi.jp)

市長コラム　天地人

NHKのど自慢開催目前！

毎週日曜日のお昼、「キン・コン・カーン♪」と鐘の音で始まる「ＮＨＫのど自慢」は、日本を代表する国民的長寿番組です。

　そののど自慢が、７月31日、田尻総合体育館を会場に開催されます。応募者の中から書類選考された２５０組が予選を行い、勝ち抜いた20組が本戦で熱唱します。

　当日のゲストは、演歌歌手の千昌夫さんとシャンソン歌手のクミコさん。東日本大震災で、千さんは、岩手県陸前高田市のご実家が被災し、クミコさんは、ご自身が石巻市のコンサート会場で被災した経験から、チャリティーコンサートなどで復興支援に力を注がれてきました。お二人の歌声が、復興発展期へと歩みを進める本市にとって、大きなエールになることを期待しております。

　のど自慢からは、たくさんのドラマや歴史が生まれてきたのも番組の魅力でしょう。宮田輝さんや高橋圭三さんなどの名アナウンサーが巣立ち、また、数多い出場者の中には、美空ひばりさん、北島三郎さん、島倉千代子さん、五木ひろしさん、森進一さんなど、のど自慢出場後にプロデビューし、大歌手になった方も多数おられます。もしかしたら、今回の出場者の中から、新たなスターが誕生するかもしれません！

　のど自慢が、旧市町を含めて本市で開催されるのは、昭和55年11月の旧古川市、平成７年８月の旧田尻町、平成13年４月の旧古川市に続き、15年ぶり４回目で、大崎市誕生後、初めての開催です。

　大崎市誕生10周年記念事業第一弾である「ＮＨＫのど自慢」。この番組のモットーのように「明るく！楽しく！元気よく！」盛り上げていきましょう！

大崎市長　伊藤康志